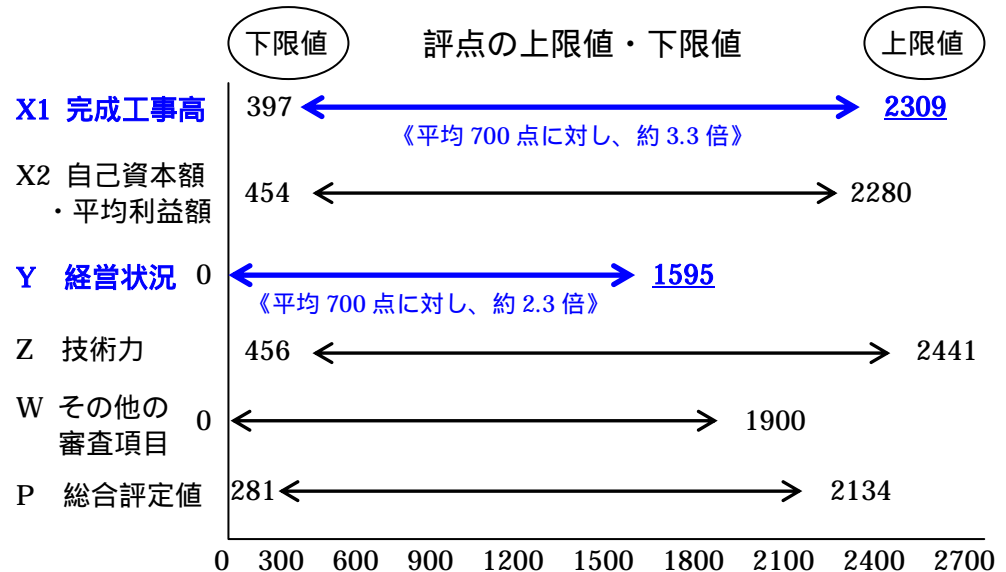




## < 経審指標のせめぎ合い 完工高(X1) >

経営事項審査の指標は、平均点がおよそ700点になるように作られています。たとえば、完工高(X1)については、今回の改正で、国土交通省は、「今年度の建設投資見込額のもとで平均点が制度設計時の平均点700点となるよう評点テーブルを補正し、(経営事項審査の審査基準の改正等について)」と述べています。また、経営状況(Y)でも、平成20年改正時の中建審ワーキンググループ第3回経営事項審査改正専門部会(平成19年)において、「平均点を概ね700点とするため、係数・定数を調整する。」としています。そこで、「経審」の指標が700点を平均にどうなっているかを見てみましょう。

右図のように、配点は同じではありません。完成工事高(X1)と経営状況(Y)を比較すると、上限値は、平均の700点に対し、完工高(X1)がおよそ3.3倍(2,309 ÷ 700 3.3)であるのに対し、経営状況(Y)では、2.3倍(1,595 ÷ 700 2.3)です。完工高(X1)では、点数を上げる余地が大きいのです。このため、工事高の大きい会社は、点数が取りやすくなっています。



しかし、完工高(X1)の指標は、過去よりその比重を引き下げる方向で調整されてきています。(下の表1参照)平成10年には、「総合評点に占める完成工事高の評点の割合(=完成工事高の実質的ウエイト)をみると、大規模階層ほど完成工事高の実質ウエイトが高くなっていました。」(「改訂版 新しい経営事項審査制度の解説」建設省建設経済局建設業課監修 大成出版社)とのことで、新X1評点(平成10年当時) = (X1評点 - 700) × 0.7(圧縮率) + 700の算出式で、評点の幅を圧縮しました。平均点の700点を起点に平均的に圧縮する方法で、完成工事高の大小による評価の差を縮めました。

(表1) 完成工事高(X1)への配点

適用時期	下限値	上限値	P点に対する配点割合	その他重要項目
平成10年直前	491点	3,270点	約50.1%	上限2,000億円 係数0.35
平成10年7月	554点	2,499点	約43.8%	上限2,000億円 係数0.35
平成23年4月	397点	2,309点	約25.8%	上限1,000億円 係数0.25

今回の改正では、完成工事高(X1)の評点テーブルが上方修正されていますが、長い期間で考えると、完成工事高(X1)の配点割合が大きく下がっていることが分かります。平成10年改正前のP点(総合評点)の上限下限の点数幅に対する完工高(X1)の上限下限の点数幅の占める割合は、およそ50.1%であったものが、平成10年の改正により、およそ43.8%に下がり、平成23年現在では、一部、元請完工高(Z2)でカバーされていますが、およそ25.8%にまで下がっています。それだけに、建設投資の減少による完工高(X1)の評点の減少に過敏になっているのかも知れません。(次月号に続く。)

WISENET編集部 松村 清(税理士)